

1. ハーグ協定活用で気になること

- 包袋閲覧がされてしまう？
- 締約国の審査主義、無審査主義の影響。
- 日本の制度(関連、部分)を生かすには、どうすればよいのか？
- 各国の制度は？
- 英語での手続き。
- コストメリットあるの？
- 新規性喪失した場合は？
- 優先権制度は？

2. 包袋閲覧について

- 問題点：
審査が開示され、無効理由の提示の可能性。
- 対策：
日本で早期審査後、国際出願で他国へ。
- 早期審査の条件：(1)又は(2)のいずれか
(1)緊急性を要する実施関連出願
(2)外国関連出願
- 早期審査をするリスク：
関連意匠登録出願の機会を短くする。

3. 締約国との比較

	ハーグ	日本	米国	欧州	韓国	中国	台湾
締約国	—	○	○	○	○	×	×
多意匠1出願	○	×	○	○	×	○	×
実体審査	×	○	○	×	△	△	○
関連意匠	×	○	×	×	○	×	○
部分意匠	○	○	○	○	○	×	○
新規性喪失	×	6月	1年	12月	6月	6月	6月
権利期間	登録	登録	登録	出願	登録	出願	出願
	5年	20年	14年	25年	20年	10年	12年
出願変更	×	○	分割	×	×	×	△
その他	権利期間は、5年ごとの更新で、最長25年		15年5月13日以降の出願は登録から15年			新喪例の適用範囲は狭い。	新喪例の適用範囲は狭い。